

令和5年12月第5回定例会一般質問事項（12／6・7）

1 岡部 恭典 議員（創政会） 【一括】

（1）市の花「ユリ」と伝統野菜「越前白茎ごぼう」の振興、推進について

- ・市の花である「ユリ」の栽培農家を増やしていくための施策と支援策について、見解を伺う。また、原材料費等（球根代）が販売価格を上回っていることや、球根の複数年利用を行っても経営が難しい現状を考えると、現在行っている球根等の補助制度を拡充する考えはないか、併せて伺う。
- ・以前は、J Aの出荷体制や共選体制など支援体制が確立されており、生産者、行政、J Aが連携を取り栽培農家の育成を行っていた。J Aとの連携を再構築し栽培農家を育成する考えを伺う。
- ・「ユリ」が本市の花であることを市民に周知するため、全世帯に球根の配布を行い、6月には、市全体がユリで咲き誇るようになると思えばいいと考えるがいかがか。
- ・伝統野菜は、後世に残していくことが大きな役割であるとする。「越前白茎ごぼう」の認知度はまだまだ低く、市民の方にも浸透していないのが現状である。様々なイベントでの取組を踏まえ、今後「越前白茎ごぼう」の魅力をどのように伝えていくのか伺う。
- ・令和に入ってから、生産者の高齢化に伴い1 a程度まで栽培面積が減少した。その結果、年間200kg程度の収穫量で、学校給食へのみの供給となっている。学校給食やイベントPR用の商品を準備するためには、年間どのくらいの生産量を確保しなければならないか。そのために、面積の拡大を図る取組として市はどのような対策を講じるのか伺う。

2 鍋嶋 邦広 議員（創政会） 【一問一答】

（1）エンディングノートの積極活用と60歳からの早期取組について

- ・福井県版エンディングノート（つぐみ）の活用はどのようになっているか。開始時期・配布状況・告知方法・活用効果はどうか。
- ・人生会議（ACP）に関する受講者等の反応はどうか。
- ・坂井市版オリジナルエンディングノートの作成と運用方法の検討をしてみてはどうか。
- ・高齢者（65歳）になる前からの積極的準備、サポート体制を充実させ、健康寿命を延ばすための取組を今こそ積極的に行っていくべきと考えるが、市長の見解を伺う。

（2）首都圏におけるシティプロモーションの強化並びに品川区との連携事業の拡充強化について

- ・シティプロモーションの観点から、県東京事務所とのさらなる連携強化が必要と考えるが、今年度の状況と来年度に向けた本市の所見を伺う。
- ・銀座の県アンテナショップと連携した事業について、今年度の状況、成果、手応えと来年度に向けた取組について本市の所見を伺う。
- ・品川区戸越銀座のアンテナショップについて、今年度の状況をどう分析・評価して

いるか。また、来年度に向けた取組について、本市の所見を伺う。

- ・首都圏（一都三県）及び北関東エリア市場におけるマーケティング戦略の立案・本市特産品の販路拡大などを目的に、行政が中心となり地域商社の機能を持つべきではないか。例えば、東京事務所の設置なども含め、市長の考えを伺う。
- ・品川区と中学生等の教育旅行を通じ、交流・関係強化や歴史文化、産業や地域課題など、双方の自治体をより深く知るための取組を推進してはどうか。
- ・品川区と本市にて相互に行政職員の人事交流を実施し、行政サービスに関する知見を深めてはどうか。また、太平洋側、日本海側それぞれで大規模災害が発生することを想定し、BCPの観点からも救援・支援体制の確立の検討なども視野に、より密接で具体的な連携協定を考えてはどうか。
- ・品川区負担での令和5年度連携事業である3都市連携PR動画制作事業の進捗は、どのようになっているか、状況の報告を求める。
- ・品川区との連携協定開始年度から令和5年度まで実施してきた各種連携事業の事業効果についてと、来年度に向けての所見を伺う。

3 川畑 孝治 議員（政友会） 【一問一答】

(1) 子どもの遊び場について

- ・子どもの遊び場として、県の児童科学館はどのように考えているのか。
- ・他の自治体では、閉校した学校の体育館など空き施設を活用しているが、現在利用者がいる施設を遊び場として整備をするのはなぜか。
- ・これまでの施策で、民間の協力を受けて成功している事例がある。遊び場の整備でも、民間の協力を得て取組をしては。

4 佐藤 岳之 議員（創政会） 【一問一答】

(1) 時代の変化に応じた交通安全施策の推進について

- ・法令の改正により自転車のヘルメットの着用が努力義務になったことや令和4年の7月1日から施行されている「福井県自転車の安全で適正な利用に関する条例」について本市は市民や職員にどのように啓発しているか。
- ・今後普及していくことが見込まれる電動キックボードについて、本市はどのように交通ルール等の啓発を図っていくのか。
- ・自転車、電動キックボードの活用は、SDGsや観光の面においても魅力的な取組であると考えますが、本市の見解を伺う。
- ・着用が努力義務となった自転車や電動キックボードのヘルメットについて、購入助成制度を検討していくべきと考えますが、本市の見解を伺う。

(2) 学校開放の効率的な運用方法について

- ・学校体育施設開放事業において、施設を使用するための規則や条件を伺う。
- ・学校体育施設を利用するまでの流れについて伺う。
- ・学校体育施設開放事業の利用実績について伺う。
- ・本市の他の体育施設やコミュニティセンターと同様に、学校体育施設についても、インターネットで空き状況を把握し、予約できるシステムを導入できないか伺う。

- ・ICTを活用したスマートロックシステムの導入について、本市の見解を伺う。

5 上坂 健司 議員（志政会） 【一括】

(1) 水道事業の現状と対策について

- ・本市が管理している水道管路の現状はどうか。
- ・水道管の耐震適合率はどうか。また、対策の進捗はどうか。
- ・上下水道管理にAIやIoT技術活用はどうか。また、遠隔検針水道メーターであるスマートメーターの導入の考え方は。
- ・水道事業の自治体間における広域連携の考え方は。

(2) 健康都市の健幸（健康）まちづくりについて

- ・健康都市宣言後の成果や血液中アミノ酸濃度測定検査の成果目標に対する検証はどうか。また、医療費削減の効果はどうか。
- ・市民に対し、健康づくりと幸福実感の相関性を高めるために、みそ汁の塩分濃度検査や歩行量（歩数）、血圧測定などを調査し、DXを活用しながらデータに基づいた事業を展開してはどうか。
- ・健康スポットとして、本庁・支所やコミュニティセンターに、運動や身体の状態を「見える化」できる体組成計などの機器導入はどうか。また、働く世代の生活習慣病対策として、健康経営の促進を図るため、希望する市内企業に対し、機器導入の補助制度はどうか。
- ・県では17市町のウォーキングマップを整備し、普及させている。本市も6コース設定されているが、さらに独自に「健康ロード」と称し、希望に応じて農道等やパイプライン上部等を活用したコース設定等、ジョギングやウォーキングの健康づくりを後押ししてはどうか。

6 永井 純一 議員（公明党） 【一括】

(1) 本市の学校教育について

- ・本市として子供たちをどのように育てていくのか、教育方針を伺う。また、本市として特徴的なことはあるのか。
- ・子供たちにとって最大の教育環境は教師であると言われる。教師が子供の未来を心から願い接することにより信頼の絆が築かれ、成長の基盤になると思う。教師が成長できる取組を伺う。
- ・平和教育について、以前の質問で広島・長崎への修学旅行を提案した際に、検討しますとの回答であった。検討結果は。
- ・学校において、深い精神性を豊かに称えた書物に親しむ機会、習慣を増やしてほしいが、現状はどうか。また、学校図書の実質や楽しく本に親しめる工夫を伺う。
- ・子供たちと真に向き合うため、教員の多忙化解消、教員のなり手不足解消、教員の人材育成につながる「大学生学校教育活動アシスタント事業」を採用してはどうか。

(2) 人口減少に備える一行財政改革一支所のあり方

- ・支所機能改革について、人口減少等社会が急速に変化する中、待ったなしの改革が必要だと思われるが、見解を伺う。

7 伊藤 宏実 議員（政友会） 【一括】

(1) 本市の農業指針策定と個人小規模水稲農家に対する支援策について

- ・本市の農業政策を進める上での基本的な「指針」はあるのか。
- ・本市における農家数で、個人小規模水稲農家は全体の80%超、経営面積では全体の30%となっている。そういった個人小規模水稲農家に対する国、県、市の支援策はあるのか。
- ・国は食料自給率を向上させることを目指している。また、国土を守る意味でも耕作放棄地をできるだけ増やさない政策が必要であるが、個人小規模水稲農家が農業を続けていることの重要性に対する認識を尋ねたい。
- ・個人小規模農家に対する市としてのオリジナルな支援策がぜひとも必要と思うが見解を聞きたい。
- ・「食料・農業・農村基本法」が令和6年度通常国会で改正に向けて提起されようとしている。また、県においても「ふくい農業基本計画」の改訂が予定されている。国や県の食料自給率向上と農業・農村の振興に向けたビジョンが提起される中で、本市としても本市の農業をどのように守っていくか、指針の策定が必要と考えるが市の見解を伺いたい。

8 松本 朗 議員（日本共産党議員団） 【一括】

(1) 会計年度任用職員制度の抜本改革を求める

- ・会計年度任用職員は、公務員としてどういう役割を果たしているか。
- ・会計年度任用職員の現行の給与水準は、一般職員と比較して、どういう水準にあるか。最低賃金を下回っている職員はいないか。
- ・会計年度任用職員の給与水準は、どのように決定されるべきか。
- ・民間企業における同一または類似の職種の労働者の給与水準との比較では、その水準はどうか。
- ・会計年度任用職員の給与の水準を抜本的に引き上げること。
- ・会計年度任用職員には、雇用期間の上限はあるか。給料の上限はあるか。
- ・雇用期間の上限は、一般職員と同様にすべきでないか。
- ・会計年度任用職員は、本人が希望すれば、正職員に採用できる道を作ることを求める。
- ・会計年度任用職員（臨時職員）が、1990年代以降増えてきたのはなぜか。どういう背景があるのか。
- ・会計年度任用職員の男女比は。なぜ女性が多いと考えるか。

(2) 通学支援事業では、保護者負担の廃止を求める

- ・交付税交付金制度において、通学バス台数が変動することによって、基準財政収入額は変動するか。
- ・令和4年度における、交付税交付金（普通と特別とも）算定額は145,000千円であることは間違いないか。
- ・令和4年度における、通学バスの事業分としての交付税交付金額（普通と特別とも）

がおよそ145,000千円とみなしてもよいと考えるか。

- ・全国で、通学バスを運行している自治体は多数あるが、保護者負担（受益者負担）を課している自治体の割合は、どの程度だと認識しているか。
- ・通学バスは、道路運送法第6条に係る許可を得ているか。
- ・義務教育の通学は、安全の確保と保護者負担を課さないことが重要であると考えますが、いかがか。
- ・通学バス、路線バス利用等の通学支援は、原則保護者負担を廃止すべきでないか。

9 林 豊夏 議員（創政会） 【一問一答】

（1）国際交流事業について

- ・英国への派遣、また英国からの招聘が中止になった理由を伺う。
- ・令和6年度以降の国際交流事業はどう考えているのか。また6年度以降の事業の考えを伺う。
- ・国際交流事業の効果、また国際交流を経験した生徒にどういった期待をしているのか伺う。
- ・この事業に誰でも応募するチャンスを与えるべきだと考えるが、何か方策はあるのか。

10 廣瀬 陽子 議員（創政会） 【一括】

（1）本市の郷土料理・伝承料理の継承について

- ・地域で郷土料理や伝承料理保存の取組を行っている地域や団体はどれくらいあり、どのような支援を行っているのか。
- ・郷土料理や伝承料理を通じて、海・平野・山地それぞれの地域の味を掘り起こすための取組はされているか。
- ・地元の郷土料理や伝承料理を発掘・発見してもらうため、坂井市郷土料理サミットや郷土料理コンテストのような自治会やまちづくり協議会ごとに地元の食文化を発信できるイベントを企画してはどうか。
- ・レシピを広く発信するため、高校生や大学生とSNS用の動画制作をコラボできるような機会を創出してはどうか。また盛り付け方の工夫を凝らしたフォトコンテストなど若い方も郷土料理や伝承料理に関心を持てるような企画をしてはどうか。

11 山田 秀樹 議員（創政会） 【一問一答】

（1）夫婦の絆を深める子育て支援について

- ・本市の新米父親への育児支援の実施内容と、その評価は。
- ・本市は母親向けの伴走型相談支援を行っているが、父親向けの相談窓口は。
- ・父親の産後うつは表面化されにくく、予防は比較的新しい課題である。放置されれば子供の虐待につながる危険性もあると言われている。本市が把握できる体制づくりが重要と考えるが見解は。
- ・父親として育児に関わり、夫婦で楽しく子育てをしていくためのアイテムとして、母親の健康状態や子供の成長記録を共有できる父子手帳を導入してはどうか。

(2) 市民の健康と体力維持について

- 本市のウォーキングブームについての見解は。
- 現在、市内で天候に左右されずウォーキングを楽しめる場所は。
- 雨の日でも雪の日でも炎天下でも市民がウォーキングやランニングなど体力維持運動を持続的に楽しめる有効な方策は。